

～The Great Luck 音声 2～

こんにちは、佐藤文昭です。それでは今から追加の三つ目の音声をこれから収録していきたいと思います。この音声はですね、TheGreatLuckを読んでいただいた後にですね、最後に私がどうしてもお伝えしたかった内容となっておりますので、ぜひ最後までお聞きいただけたらとても嬉しいです。

私のプロフィールを読んでいただいた方は分かると思うんですけども、私は人生で二回大きな挫折をしております。その一回目の挫折はですね、24歳の頃に行っているんですけども、そこでサラリーマンを辞めてですね、起業した年なんです。起業するときに何で起業しようかなと考えたんですけども、もともとサラリーマン時代もずっと建設系の会社で働いていたんですね。であれば、まあ、建設業で起業するのが一般的かと思うんですけども、どうしても、私の中で建設業で起業というイメージが湧かなかったんですね。

最初の挫折…託児所付きカフェの失敗

で、別の何かビジネスで起業したいなと考えていたんですけども、その時にちょうど私は24歳の頃に、もうすでに子供二人授かっておりまして。家庭でずっと子育てをしていただいていたのは妻なわけで、やはり子育てをするっていうことは、本当に大変なことだと妻の姿を見て思ったんですね。で、少しこう息抜きをしてもらいたいなという思いがあって、どこかそういう場があったら素敵だなっていうふうに思ったんですね。

そこで、託児所付きで、その託児所で子供が楽しく遊んでいる姿を見ながら、お友達と楽しくランチでも食べられたら素敵だなと思ひまして。そこです、託児所付きカフェというものを一つ作ったんですね。

当時、サラリーマン時代から貯めていたお金とか、あとは事業計画書とかをかなり分厚いのを作って、融資をいただいてですね。それで、その融資と私の資金を使ってカフェを作ったんですね。

今思えばですね、本にも書かせていただきましたけれども、ランダム性という言葉も、ランダム性のラの字も知らなかったので、お借りしたお金と、そして自分の自己資金を全部投入しちゃったんですね。もう読んだ方はお分かりだと思うんですけども、全部を投入するなんていうのは、もうありえないですよ。でも当時はわからなかったもので、もういけるっていう頭しかなかったんですね。なので、もう全部投入したんです。

託児所にはボールプールも作りました。あとは滑り台ですね。公園にあるような滑り台を取り寄せてですね、大きなやつですね、当時はそれも中に入れて。さらにいろんな遊び

道具とかもですね。中にたくさん入れたんですね。で、保育士さんに、そこで働いていたいて、お子様をお預かりすると、その姿を全面ガラスで危なくない高さで全部ガラスにしてください。で、そのガラス越しにお母様たちが楽しくランチをしていただく、カフェで楽しんでいただくというようなコンセプトで作ることができたんですね。

で、オープン三日間はすごい行列ができるほど、来ていただけたんですね。で、チラシもまいて、オープン三日間は半額っていうね。あの全品半額というようなことをやったので、たくさんの方に来ていただいたんですけれども、やはりそれ以降はですね、なかなかお客様に足を運んでいただくことができませんね。

また来ていただいてもですね、やはりお子様を預かっている間は最後までドリンク一杯で、少し見ておくみたいな感じで、全く売りが上がらなかったんですね。で、もう本当、初月から赤字だったんですね。

その赤字ももうちょっと頑張ったら黒字になるよねっていうようなレベルではなく。もう黒字化まで果てしない状態だったんですね。まあ、もちろんお借りしたお金の返済、そして家賃、光熱費、お給料をいろんなものがかさんできて。で、全くこう辿り着けないようなイメージなんですよ。黒字化まで、もうお金はほとんど全力投球で使ってしまったし。もうどうしようもなかったですね。本当に八方塞がりっていう状態。もうどうしていいかわからないんですね。

ここで辞めたとしても、結局、原状回復とかでもお金もかかりますし、ましては、お金をお借りしてスタートしてるんで、その返済をどうするんだとかね。もうやめるにやめられないみたい。もう本当に八方塞がりでした。その時は、子供も二人いました。暮らしていかなくやいけないっていうような状況で、ああ、もう本当にもうどうしていいかわからない。サラリーマン時代に戻りたいみたい。そんな後悔の念しかなかったんですよ。

絶望の夜、笑顔の寝顔に見た光

もう、やっぱりそうなるとどんどん波動も落ちますよね。気持ちも落ちるしもう自己嫌悪に陥ってしまったり、もう本当にひどかったですね。当時のことを今思い出しても。もう、どうしよう、どうしようと、その時ですね、もうどうしようもなく本屋に行って、いろんな本を読みあさったりもしたんですよ。なんとかしなきゃと思って、ずっと読みあさったりもして、それでも解決策が全く出ないんですよ。

ある時、夜遅くに家に帰って、当時アパートでしたけれども、アパートの畳の部屋に布団を敷いて寝ていたんですね。もう、すでに子供二人はもう寝ていたんですね。もう遅かったのだ。ただいまと言って帰って、子供の様子を見に行っただんですね、子供がですね、ものすごい笑顔で寝てたんですね。二人とも。まあなんて言うんですかね。

私自身はずっとね。子供時代を何不自由なく育てていただいたんですね。親に。で、本当に苦労というものを全く感じることもなく、大人になって、そのまま社会人となって、生活をしていたんですけれども。今、自分がやっていることっていうのは大失敗して、事業に大失敗して、その月のお金もなくて、月のお金もどうするんだというような状況の中、もう自分もね、本当に人生やめたいなって思っているぐらいだったんですね。

当時、にもかかわらず、子供たちが笑顔で寝ていたんですよね。で、もうその姿を見て、自己嫌悪に陥っていた自分っていうか、もう本当に人生やめようとかね、思ってしまった自分に本当に腹が立ったんですね。自分は何不自由なく健康的に大人にまでさせていたのに、自分は子供に対して、もう借金生活ですよ。とてつもない苦勞をさせてしまっている。妻にも苦勞させてしまっている現実が本当にもう腹立たしくなったんですね。

「覚悟」と一台のパソコンからの再起

妻にもですね、バイトを雇うお金もなかったので子供をおんぶひもでおんぶしてもらって、レジを打っていただいてたんですよ。当時。そのカフェの時ですね。でも、本当になんてことをしてしまったのかと。こんな現実を作ったのはもうしょうがないと。でも、この現実を自分で作ったにもかかわらず、自分でそれを諦めようとしている自分に腹が立ったんですよ。

当時でもう本当にそんなことやめようと、絶対にこの子たちには裕福な暮らしをさせて。もう本当に幸せになってもらいたいというふうに心から思ったんですね。覚悟を決めたんですよ。

じゃあ、今自分に残っているものは何だと。自分の手元にある宝はなんだと。もちろん家族もそうですけども、仲間もたくさんいたんですね。うちで働いてくれているスタッフたちもいたんですね。で、目の前にポツとね。パソコンが一台だけあったんですね。

で、そのパソコンが一台あって、もう今このパソコンがありネット環境もあると。じゃあ、このパソコン一台でできることを何かやってみようと思って、その本当にパソコンが全くできなかったんですね。本当に何もできなくて。パソコンなんていうのは、当時建設業だったので、そのCADという図面を書くとかはできたんですね。でも、それ以外のこと

っていうのは本当にできなかったんですけど、もう寝ずにやったっていうのは、まさにその当時のことを言うと思うんですよ。

寝ずに頑張ったんですね。結果、そのネットでパソコンのビジネスから収入を得ることができたんですよ。それもかなり大きめの収入ですね。得ることができて、これはすごいと、当時、かなりのお金ですよ。本当に時間をかけてカフェをオープンしました。でも、売り上げていうのはとても小さいわけですよ。でも、その売り上げをはるかに超える売り上げが、パソコン一台から作れたんですね。それも経費というものが、ほとんどかからずに作れたんですよ。

そこで、ネットを使ったビジネスっていうのに将来性がとても見えたんですね。で、私はそのままパソコンの世界、ネットの世界っていう部分に入ってしまったんです。

富がもたらした我欲と、二度目の暗闇

当時はそれで資金が作れたので、カフェの方はですね、本当に申し訳なかったんですけども、閉店させていただいてですね。で、全員をまたネットの方で雇うことができなかったもので、今でもですね、その時に働いていた方も、今の私の会社でも働いていただいている方もいるんですけども。やはり、全員に働いていただくことができなかったもので、その時は申し訳なかったんですけども、閉じさせていただきしました。

そこからですね。どんどんうまくいったんですね。事業が。会社もどんどん増えて、社長たちもたくさん増えていったんですね。で、いろんな会社を統括できるのがあって、収入が増えていくわけですよ。ここで私は大きな勘違いをしていくわけですね。要はお金とというのが力に変わり、そしてミトコンドリアの暴走にも変わっていくんですよ。

でも、お金がどんどん増えていくんですね。お金がどんどん増えていくと、そのお金がパワーだと勘違いしてしまうので、そのパワーを提示するようになってくるんですよ。要は我欲を満たすようになっていくんですね。いい車に乗ってみたり、いい家に住んでみたりとかなど、本当にどんどんそういうふうにおかしくなっていってたんです。

やはり、私は見えなくなっていくわけですから、ミトコンドリアの「私」の暴走に変わっていくわけですよ。結果はわかるとおり、どんどんお金がなくなっていくんですね。途中から、あれ、どうしたんだ、何が起こったんだと、あんなにたくさんあったお金がなくなっただというふうになっていくんです。

ここで、さらにうまくいかない事業が出てきたり、うまくいかない会社が出てきたり、次々とかう問題が勃発していくんですね。そこで完全に八方塞がりとなり、今回のTheGreatLuckの最初のプロローグで書かせていただいた状況に陥るんです。

なぜ、一度目の奇跡は起きたのか

そこで初めて、私は仏門の世界であったり、神道の世界であったりとかですね。本当にそういう、さまざまな宗教の世界っていうものを、もう一度勉強しようと思い直すんですね。そこで勉強して、瞑想して、また勉強してっていうのを繰り返していくうちに、今回のTheGreatLuckの考え方っていうものが分かるようになったんです。

そこで、一回目の失敗の時は何だったんだ、というふうに思ったんですね。あそこからこの起死回生、なぜ、あそこからすべてがうまくいったんだ、と思った時に、あの時は

子供の寝ている姿を見て、人生を諦めかけようとした自分に本当に腹が立って、もう命を懸けてでも、この子たちを幸せにしようと思った瞬間だったんですね。

つまり、それって今見返してみると。自分の欲、そのすべてのものを捨ててるんですよ。自分の命をかけてるんですよ。命をかけるということは、もうすべて、そういう自分の我欲というものはすべて手放している状態ですよ。で、その子たちを守ろうと思ったので、奇跡が起きたんですね。

それは後でわかったことなんですけども、当時はそんなことはわからないですよ。なぜ自分にそういうことが起きているのかわからなかったの、なおさらなんです。どんどんうまくいくと、また我欲が働いていくんですよ。つまり、ミトコンドリアがどんどん出てくるんですね。本当に調子に乗るっていう言葉があっていると思うんですけど、どん

どん調子に乗っていくんですよ。そしてまた同じ過ちを繰り返してしまった。で、また八方塞がりになり、改めてその事実気づき、そして天の私という存在に気づけたんですね。

誰かのために生きるという覚悟

つまり、この音声で「あなたにお伝えしたかった内容」っていうのは、誰かのために自分を投げ打ってでも幸せにさせたいという覚悟を持てるかどうかっていう部分だと、私は思うんですね。

これまで、私たちがこの地球に生まれて、そして今こうやって生活できるっていうのは、これまでご先祖様が代々、覚悟を持って、この地球というものを守り抜いてきた結果っていうものが、今の私たちのこの生活を成り立たせているわけじゃないですか。

昔の戦争の時代もそうですね。戦争は本当によくないと思うんですけど、その時代背景としては、しょうがない、仕方がないことだったのかもしれませんが、その時に日本の軍の方たちっていうのは覚悟を持って、子供たちのためにですよ。この国を守るんだ。という覚悟で戦場に降り立つので、そこにはすべてを投げ打って、いくわけですよ。だから天なる力になるし、そしてご先祖という力というものがすべて働くので、強かったのではないかというふうにも思えるわけです。

天のひらがなの「わたし」、そしてご先祖様とか、すべては、その「わたし」に集約しているんですね。本当に、今いる地球上で生活している私という存在を生かそうとしてくれてるんですね。本当に全力で応援してくれてると思います。じゃなければもうとつくに命はないわけじゃないですか。

勝手に心臓は動いているわけですよ。勝手に血流が流れるわけですよ。それって、自己コントロールできないわけじゃないですか。それは生かされているんですね。愛されて生かされてるっていうことじゃないですか。つまり、自分は常に愛されてる状態なんですよ。生かされてる状態なんですね。

あなたに全力で生きてもらいたいから、全力で幸せになってももらいたいから、そうやって生かしてくれてるわけですね。自分がいかに我欲にまみれていようと、波動が落ちて、こう悪い思考に流れていようと、常に心臓が動き、血流が流れているわけです。つまり、どんな状態であろうとも愛され、生かされているんですね。

だから、自分がその覚悟を持って、誰かのために命を投げ打ってでも、幸せにしてあげたいなと思えるくらいの自分になるっていうことは、もうそういう我欲が外れるわけです

よね。だから、天のひらがなの「わたし」には、ご先祖様、宇宙のエネルギー、すべてが全力で流れてくるわけです。だから一気に奇跡が起きていくっていうことですね。

自分には守りたい人がいる。その人を全力で幸せにさせたいと思う。それこそが、天なる「わたし」からの力っていうものを全力で受けることができる状態である。と私は思うんですね。

支え、支えられるということ

今こうやって生きていける、生きているっていうことは、100%、絶対に自分一人で生きてこれたわけではないと思うんですね。もちろん親という存在もありますし、親が産んでいただければ存在はできませんし、親が育ててくれなければ、絶対にここまで成長できないわけですよ。

つまり、誰かに支えられているので、今現在も、例えば食べ物をいただくときには、お米であれば、そのお米を育てる農家さんもいれば、そのお米を運んでくれる方もいる。いろんな方に支えられて、今自分がいるっていうことをしっかりと認識して、本当にたくさんの方に支えられているんだという感謝ですよね。感謝の心というものを持つということ、本当に大切なんだなっていうふうに、私は思うんですね。

また、逆にあなたを支えとして思ってくれている方っていうのも、実は世の中にはたくさんいるということです。実際に多くの方々は、あまり周りの人を見ようとしてないんですね。見ようとしていないんです。でも、よく観察してみると、ちよつと元気がないんだとか、ちよつとなんか落ち込んでるのかなとか、ちよつとしたSOSが出てるのに気づき始めるんですね。周りの自分の周りの人たちにSOSが出てるのに気づくことができれば、

どうした、ちょっと元気ないぞとか言って声をかけてあげられるし、何か私にできることがあれば言ってる。っていうような一言を添えられる。

もしその時に、大丈夫だよって言ってもらえたら、その言ってもらえたこと自体が本当に支えになるんです。つまり人は本当にね、支え合って、支え合って、生きているということを経験して、そこに対して感謝をしていく。

美しい未来の台本を描くために

そういう人たちがたくさん集まってくると、猿田さんの星のように、猿田さんの国のようになつていくと、私は信じているんですね。あの国の人たちはみんな、ご先祖様に感謝し、そして未来の子どもたちに対して、一体自分は何ができるのかっていう覚悟を持って、より良い国をつくっていくというふうに、みんなが思っていて歩んでいるんですね。だから

こそ、ああいう国ができていく。そして、そういう人たちがどんどん集まってくる。っていうように思います。

そういう人たちの集団がどんどん世の中にできていくと、とても美しい、とても素晴らしい未来の一コマを描く人たちがたくさん増えてくるわけですし、その宇宙が作る台本はとてもダイナミックにとっても美しく、とても素晴らしいものなので、いい世の中になっていくっていうのは想像ができますよね。

この本や、この音声を聞くことによって、あなたの運命を大きく変える、1%のきっかけになってもらえたらなっていうふうに思っているんですね。あなたのこれからの人生がますます素敵になり、ますます光り輝くように。心からお祈りしております。

このたびは、TheGreatLuckをご購読いただきましてありがとうございます。また、この音声もですね、ダウンロードいただき、そしてお聞きいただきましてありがとうございました。

何か不思議なご縁であなたにお会いできますことを心より楽しみにしております。